

AJAPE スペイン語圏の子ども達ステップ学習プログラムの完了報告書

会計は別紙決算書参照

進行状況：

4月 毎週 1～第4土曜日 午後3時から5時まで学習支援教室開催。

4月14日 子どもを対象にインターネットで学習希望者と方法についての説明会開催。

5月 17日 担当の川合からインターネットを使った学習システムの説明を理事会で行う。

問い合わせ先リクルート「ステディアアプリ」。NPO で実施するので当面無料で使用する交渉を行い了解の返事うけとった。以下は川合のレポート

機能（できること）：

- ① 小学校4年から高校3年までの講座ビデオを視聴して学習する。
- ② 説明や問題のテキスト本（200P～300P） 無料ダウンロードあるいは購入する
- ③ 指導講師(以下、講師という)から生徒に宿題を出す
- ④ 講師からクラス全員へお知らせメッセージを送る。生徒からの返事メッセージを送る
- ⑤ 教科・講座は各自選択。今まで習得できていない分野、教科の復習か学校の授業のための予習

学習スタイル

- ① テキスト+ビデオ
- ② テキストのみ
- ③ 宿題として使用

課題

- ① テキストの準備
- ② ビデオが理解できない子どもが質問することが可能なのか、学習意欲のない子どもへの対応
- ③ パソコン、タブレットでの画面操作サポート
- ④ 進捗管理、クラス編成（無料は教師のみという回答の為）
- ⑤ 現在の学習教室内でのインターネット使用方法

以上に関しての説明があった。会長のアルベルト・パラシオスが大学の授業で使用している私用タブレットを試しのために3台貸し出しの提供を受けた。まず、高校2名、小学2名の兄弟に説明して試すことに決定。

タブレット使用の結果

指導する人がいなければうまく使いこなせないことが分かった。子どもにタブレットを渡して学習をさせたところ講師が行う授業の部分は聞いていると時間がかかりめんどろであるという理由でスキップし練習問題のみ使用していることが分かった。またそれぞれの子ども個別の管理は時間とパソコン使用の技能が要求され簡単に取り組むことができなかった。

スタディアアプリでは回答を選択肢から選ぶとき、「でたらめに」選択するなどがあった。自分で学習する習慣のない子供は結局、学習に使えない。「学習書を使うのと同じ」だったのできめこまかい指導者のサポートが必須であった。

また家に持ち帰り自主学習に使用させると使用状況の管理ができない事も分かった。（ゲームなど勝手に使用しても管理不可能）

その結果 E ラーニングの限界も感じた。

9月に方針変更

9月の定例会で再度使用方法に関して話し合った。その結果タブレットに無料アプリを入れて毎週土曜日学習教室で使用方法をとることに決定。無償アプリをダウンロードして使用するためにタブレット5万×3台購入することに決定した。同時に教材も各講師が厳選して購入することに決定。

その後の状況

教材に関しては無料で提供している外国にルーツを持つ子どもたちに使用可能な教材を大量にダウンロードしてプリントアウトすることに決定。ファイル、A4のプリント保管する引き出しも用意。すでにダウンロードしてあるアプリ+プリントで必要に応じて個別指導を行い対応することにした。

子どもの教材に詳しい大学生に教材アプリの選定を依頼。

必要なものはタブレットに入れることを依頼した。

そこでまた新たな問題が見つかった。当初は無料のアプリも無料期間が終わると課金が始まり結局は毎月出金が必要になる仕組みのものもあった。それぞれの機能を丁寧にチェックする必要があった。結局iPadに入れたアプリは無料のものだったが、宣伝があったり、他のサイトへ導かれてしまうようなものがあったりするので注意が必要だった。

プリントするものはプリントし、学年、教科別のファイルに保管。途中プリンターの故障で予定外の出費があったがプリント、フォルダーへの準備を行った。それぞれの子どもに合わせてタブレット学習とプリント学習を組み合わせる指導を開始した。担当の大学生には謝金を払って対応してもらうことにした。なお会場費は抽選に外れた際に使用した部屋代のみで、ほとんどが減免申請を行い使用料は無料であった。

課題

いくらテクノロジーが進んだといっても結局は個別の子どもにあった指導、対応をしなければ有効な指導にたどり着けないことが分かった。子ども達の実情が分かる指導講師への依頼が不可欠と判明した。今後もこのプリント、タブレット双方を子どもの状況に合わせて使用していくことにしている。

プロジェクト責任者： 高橋悦子

事務及び教材印刷： 川合胤臣

アプリ検索、ダウンロード：阿部 芙結奈(法政大学2年生)

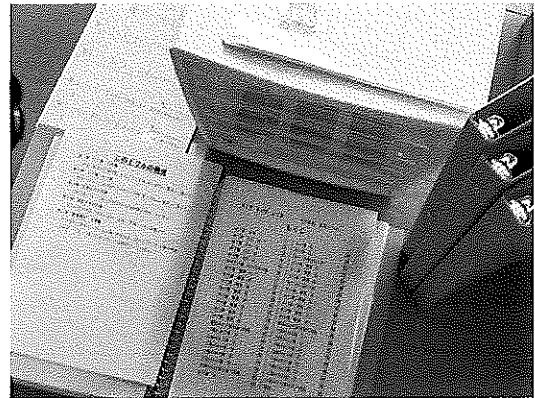
2人で1台のタブレットを使用

色々の授業スタイルを模索





保護者を巻き込みスペイン語での懇談会



ダウンロードした教材学年ごと

スタッフ作業表

川合胤臣

1	4月7日	インターネットでの教材検索、検討	スタディサプリ小中学講座 公教育支援事務局とのやりとり	5,000
2	4月13日	ヒヤリングシート送付		5,000
3	5月25日	リクルート 丹羽さんとのやり取り		5,000
4	6月16日	教材運用方法の検討		5,000
5	7月21日	タブレットお試しの準備、使用方法説明等		5,000
6	11月17日	アップルのタブレットの検討、値段調べ等		5,000
			合計	30,000

指導講師日程表： 阿部芙結奈

1	10月6日	それぞれの子どもの学年に合わせるための個人レベルチェック	5,000	
2	20日	希望の教科を聞き取りアプリを探す	5,000	
3	11月10日	試しに自分のタブレットに入れた教材で学習してもらう	5,000	
4	24日	実際に使用させて試し、興味が続くのは最大20分ほどと判明	4,800	
5	12月8日	20分ほどで基礎学力の学習ができる教材の検索	5,000	
6	15日	塾方式のスタイルと基礎学力復習の比較	5,000	
7	1月12日	冬休み中に入れたアプリで実際の指導を行う	5,000	
8	26日	休んだりレベルに合わなくて興味を持っていない子どもに個別指導	5,000	
9	2月23日	生徒、保護者、スタッフとの話し合い	5,000	
10	3月16日	授業で指導した後今までの反省、今後の希望についてのミーティング	5,000	
			計	49,800